

モルガン・スタンレー

金融業界で活躍している理系人材は、以前より増加している。とはいえ、「本当に理系の強みを活かせるのか」

「実際にどのような仕事をするのか」なかなかイメージできないという理系学生も多いのではないだろうか。

こうした未知なるものへの不安を払拭できる機会が、インターンシップだ。

「インターンシップは、企業と学生がお互いのことを知るいい機会」と語る

モルガン・スタンレー・グループ株式会社 人事部 武山智恵氏に、同社のプログラムについて話を聞いた。

を体感できる、 プログラム

理系人材の活躍フィールドは、
想像以上に広い

世界有数のグローバル総合金融サービス企業、モルガン・スタンレー。その事業分野は、多岐にわたる。例えば、株式・債券の引受業務や企業の合併・買収(M&A)のアドバイザリー業務、不動産証券化業務などを中心に幅広い企業金融サービスを提供する「投資銀行業務」。そして、刻々と変化する金融市場において、各分野に精通したプロフェッショナルが高度な金融ノウハウを駆使し、株式・債券の取引サービスや顧客のニーズに合致した商品の開発・提供を手掛ける「セールス&トレーディング業務」などが挙げられる。「金融業界で理系人材が活躍しているのはテクノロジー部門だけだとイメージされる方も多いですが、すべての部門にお

いて、理系人材が活躍できる可能性があるということ、ぜひ知っていただきたいです。」そう語るのは、人事部の武山氏。金融業界では、あらゆる部門が数字を扱い、論理的思考が求められる。だからこそ、理系の活躍フィールドは大きい。しかし、事業法人や機関投資家向けビジネスであるがゆえに、学生にとっては具体的な事業や業務内容をイメージしにくい。だからこそ、同社はインターンシップを実施し、理解を深めてもらう機会を設けているのだ。

現職の社員も参加する、 実践的なプログラム

モルガン・スタンレーが例年行う「Summer Insight Program」では、複数のコースを実施している。その年によって開催する部門は多少異なるが、いずれも1〜5日間のプログラムとなる。「会社説明会や面接といった接点だけでは、企業と学生がお互いを知る機会があまりありません。そうすると、入社後に深刻なギャップが生じる可能性があります。特に当社のような外資系金融機関では部門別採用を行っており、各部門の業

務の理解が必要となります。そこで実際の業務をイメージできるよう、インターンシップを実施しているのです。数日間に分かることは限られていますが、入社前のイメージと入社後のギャップを少しでも埋めることができればと思います」それゆえ、プログラムの内容は各部門の実際の業務に近い内容となっている。例えば「投資銀行／資本市場コース」では、M&Aなど実践的なテーマに対するグループワークとプレゼンテーションを



行い、「セールス&トレーディングコース」では金融市場の最前線で働く社員の実務見学やトレーディング・ゲームを行う。そして、いずれのコースも各部門の第一線で活躍する社員が参加する。「プレゼンテーションに対するフィードバックも、当該部門の社員が行います。実践さながらの厳しい視点や、学生の方たちには考えも及ばない角度からの質問が飛び交います。自らのアイデアに対してプロフェッショナルが直接評価をするということで、学生の方は大きな刺激を受けるようです。また、インターンシップは社員と交流する良い機会です。なるべく多くの社員の仕事や考えに触れ、組織風土にも理解を深めていただきたいですね」

単に参加するだけでなく、積極的に学んでほしい

「いずれにおいても、コースの最初に金融業界・投資銀行についてのレクチャーがあるため、特に金融知識がなくても問題はない。実際に、幅広い分野の学生が参加しているそうだ。」

「来て欲しいですね。業務内容やそのやりがい、職場の雰囲気、社員はどんなキャリアを築いているのかなど、面接では得られないリアルな情報を得られるのが、インターンシップの醍醐味です。『会社に選ばれる』受け身の姿勢ではなく、『自分が会社を選ぶ』という意気込みで挑むと、有用な経験になるでしょう」

また、インターンシップに参加しただけで満足するのではなく、新卒採用のエントリーまで数ヶ月間、何をするのかも重要だ。もしあなたが面接官の立場だったら、「インターンシップへの参加経験や数だけをアピールする学生」と、「インターンシップの経験を踏まえて、スキル

「金融ビジネスの現場」 濃密なプロ

を補うために学習したと話す学生」、どちらと一緒に働きたいと思うだろうか？

**「自分に合う会社や仕事を
見極める」姿勢が重要**

内定者からも、「サマーインターンシップの経験は重要」という声が多いそうだ。「やはりオフィスに入り、社員と交流できるのは貴重な機会だと思います。面接の場では質問しにくいこともフラクに聞くことができますよね。『理解が深まった』『印象が変わった』と言う方が非常に多いです。『新卒で入社して長く働いている社員が意外に多くて驚いた』という声

もありました」

社会人になると短期間に複数の部門や企業を経験することは難しいが、インターンシップであれば夏の間に複数のコースに参加することも可能だ。「当社はコース別に時期をずらして開催するため、複数部門での参加もできます。実際に複数のコースを受ける方もいらっしゃいます。もちろん、興味がある複数の企業で経験することも可能です。インターンシップの機会を利用してぜひ自分からアクティブに学び、今後のキャリアを決めるにあたって必要だと思うことを、積極的に得てもらいたいですね」

理系学生へのメッセージ

金融機関では、どこの部門であっても数的感覚が強い人は非常に重宝されます。また、ミーティングや電話1つをとっても、ロジカルに考えておけば驚くほどスピーディーに意思決定が行われます。つまり理系の素養を持っている方が、まさに活躍できる分野なのです。「自分は金融工学を学んでいないから」という理由で金融業界を敬遠したり、選択肢から外してしまうのは本当にもったいないことだと思います。理系の強みが求められている業界ですから、ぜひ自信を持って来ていただきたいですね。



モルガンスタンレーグループ株式会社 人事部
武山智恵（たけやま・ちえ）